

時に翻弄されたり2

2020年4月
石原勝巳氏の随筆を転記

時に翻弄されるということがまさか再び起こるとは、なんという皮肉であろう。今年の11月18日の土曜日のことである。これは不法滞在との闘いでもあった。当初の計画では、11月19日日曜日午前1時発の大阪行きガルーダ機で帰国する予定であった。いつものように友人宅を午後10時に出発した。季節的に雨期であり、その時点では熱帯の雨が強弱をつけて夜空から降り続いていた。車に乗り込んだ私は、最初は鼻歌まじりで、予定通り空港に到着するものと思っていた。

ところが・・・である。

その日は土曜日の夜（マラム・ミング）でもあり、空港（パンダラ）へ向かう途中の道路が車や二輪バイクで大渋滞（マチェット）していたのである。一向に前に進まない。非常に焦ってきた。友人も焦っていた。このままだと搭乗手続きができず、搭乗予定の飛行機にも乗れないのではないかと。そういう事態になれば、変更不可の格安航空券であるから、不法滞在のかどでご用になる。思わず神様助けて下さい。である。かくして友人がとった方法は自らの経験則による迂回路の選択であった。バリ唯一の高速道路橋（ジャラン・トル）を經由して空港に向かう選択であった。道路橋を高速で走り抜けたのは幸いであったが、この物語はそれで完結しなかったのである。飛行場まであと10分のところのゲートウェイでとんでもない事態に陥ってしまったのである。ゲートウェイを通過できない事態が生じたのである。いくら現金を持っていても如何ともしがたい。つまり現金（ツナイ）では、そこを脱出できないのである。そうこうしているうちに後続車が次から次へと集結し、大渋滞になってしまったのである。以前は現金さえ支払えば何ら問題はなかったのだが、11月1日からインドネシア全土の高速道路はシステムが変わり、カード支払いのみになっていたのである。

もちろんそのことを知っていれば当然事前購入しているわけで、かくも大きな渋滞を惹起（じゃっき）することはなかったのである。人間というものは冷静さを失い、慌てる、パニックになる動物である。かくなるうへは、絶対他力を信じよう。直後の運転手に頼んでみよう。運転手は中年のご婦人だったが、喜んでカードを貸してくれた。カードをかざすと無事バーも上がり、窮地を回避することができたのである。友人はご婦人にお礼をしようとしたが、その婦人はいらぬという。なんていい人なんだろうと思った。互助の精神（ゴトンロヨン）はどこでもあるのだ。というよりも、直前の車が動かないと自車も通過できないと

いう切迫した事情もあったからだろう。そのときは実際数分間だったと思うが、感覚的には数時間にも思え、大量の冷や汗が全身を包んだ。その後空港には午後11時過ぎに到着し、搭乗手続きを終え、これでやっと祖国へ帰れると安堵したのも束の間今度は運行調整のため2時間遅れる（ディレイドマーク）とのことである。旅の最後もこれか。

しかし更に2時間遅れる。本当に出発するのだろうか。もしだめであったら、どうなるか。友人はあとで飛行機が遅れなかったかと私に訊ねた。そうだと返答すると、友人は万が一に備えて随分空港内に待機していたと後日独白した。申し訳なかったと心から詫びた。

4時間も遅れて、出発したのは午前5時前であった。エコノミー座席に座したとき、旅情は既に木っ端微塵に吹き飛び、再び塵勞（じんろう）感が来襲し、あとはうつらうつらしていたのである。

（注）

惹起（じゃっき）： 問題を引き起こすこと

絶対他力： 他力本願（阿弥陀仏の本願に頼って成仏すること）

塵勞（じんろう）： 俗世間における煩わしい苦勞